

●「高知県の障害者福祉問題」

知事： 障害者自立支援法のことは、よく調べましたね。これは今、非常に議論になっている問題です。今回皆さんがいろいろな方にアンケートを取られたので、より生の声が私も学びました。少し難しい言い方をしますと、1割負担の問題というのがありますが、応能負担と応益負担問題。障害者自立支援法は、障害を持っている方がサービスを受けると、それに伴って1割分お金を払う仕組みになっています。だけど、所得が低い方は払わなくていいという仕組みに元々なっていなかったのが、すごく反発があったりしました。それから、リハビリの期間が一定期間を超えると出ていけないといけなくなったりと多くの問題がありました。それで、所得の低い方については特例が少しずつ作られて、今はもうモザイクみたいな制度になっています。この障害者自立支援法の話は、今の政権下で見直すと思いますが、社会福祉の関係について日本全体でいうと、なぜそのように厳しい制度を作らないといけなかったのか。皆さんがひどい制度だと言っていたそれを作った人は、ひどい制度、大変な制度だと分からなくて作ったのか、それとも意地悪だったのか、どう思いますか。

生徒： それは違うと思います。

知事： 社会保障の分野、障害者福祉問題、高齢者の年金の問題もそうですが、毎年必要なお金がどんどん増えています。ところが日本全体で使えるお金は増えている状況ではないので、何とかして社会保障に必要なお金を抑えられないか、もしくはサービスを受けている人がもう少し負担する仕組みにできないかを、ずっと議論してきました。障害者福祉でも受ける利益に伴う負担をすることを制度として入れようと思いました。今後、社会保障の問題は大きな課題になって、高知県だけではなく、日本全体で議論され続けていく問題だと思います。みんながずっと使っていけるような制度を保つためには、一定の負担をしてもらうことも必要。だけど他方で、そういう厳しい議論をするときには必ず、特に立場の弱い人のことを考えた対応をしっかりと考えるのもまた必要なこと。この両方のバランスを取った議論を今後もしないといけなないと思います。

最後に、高知県独自の方式を作るという話。少し辛いことを言うようですが、障害者自立支援法でかかるお金を高知県だけの財源で全部賄うことはとてもできません。ただ、日本全体でこの障害者自立支援法は必ずいい方に見直しがされますから、その点は見えて欲しいと思います。

もう一つ、実は高知県独自の福祉をやろうとしています。高知県内34市町村の中に障害者施設が全然ないか、もしくは一つしかないところが半分くらいあるのはなぜか。それは、国が決めた障害者施設のスタイルは、人数が少ない高知県では成り立たないからです。例えば、国の基準では、障害者施設は20人以上利用者がいて、職員が5人いないと補助金を出さない仕組みになっています。東京などでしたらすぐに20人集まるでしょうが、高知県だと人口が少ないから20人も集まりません。3人しか集まらなくても5人職員を置かないといけなないという規制になっていますので、採算が合わず社会福祉施設ができないことがたくさん起こっています。

それで今、高知県の独自の制度として小規模多機能型施設「あったかふれあいセンター」を作ろうとしています。障害者の方も、介護を必要とされる方も、子育て支援をやろうとする方も1箇所集って、いろいろな社会福祉サービスを提供できるようなものを作ろうとしています。障害者だけ、介護だけ、子育てだけだと人数が揃わなくても、その三つを合わせればそれなりに人数が揃う。それを支えることができる「あったかふれあいセンター」を県内で30箇所以上作り、その中身を今後もっと充実させていきたいと考えています。高知県のように過疎、高齢化、人口減少が進んでいるところの福祉のありようを、国とは関係なく高知県独自で追求していこうとしています。それも勉強してみて、いろいろな提言などをいただけるとありがたいと思います。

生徒： ボランティアを増やすことについては、私たちが行った障害者施設やその他の施設に、小学生、中学生、高校生をボランティアとして送って、一緒に物を作ったり、お話をしたりして人権の大切さを勉強して、成長してもらえればという考えもあります。

知事： ボランティアを増やすためにも学校教育の段階から現場で勉強することは確かに有意義なことだと思います。「あったかふれあいセンター」も地域の多くのボランティアの方に支えてもらっています。ボランティアの助けがないと、高知県では一人暮らしの高齢の方、障害を持っておられる方を支えていくのは難しいと思います。皆さんもボランティア活動に参加して頑張ってくださいと思います。

教育長： 非常にタイムリーなテーマです。これは、勉強すればするほど悩ましいテーマではなかったですか。簡単に言えば、お年寄りの数が増えて、若い人の数が減っている。社会福祉サービスは充実したらいい。しかし、充実するもとは働いている人の税金です。だから、そのバランスの中でやっていかなければいけない。どうしたらいいのかは、実は簡単には分らないです。どうしたらいいかと思ひ考ふる、社会に出たらこのようなことばかりです。そういうことを考ふるのは非常に大事で、解決策がでるまでに幾つものクエスチョンがあつて、考ふる末にボランティアを増やすことに行き着いたんですね。ボランティアを増やすことは、私も正解だと思います。でも、プレゼンでは「悩んだ末にこの結論になりました」とあつたら、もっと良かったと思います。

これからの日本は税金で全部やめていくことは無理だと思いますから、できる人が手助けをしていく社会の仕組みを作らなければいけません。ですから、ボランティアに目を向けたのはすばらしいことです。そういう心根を持っている生徒がいたことを大変嬉しく思います。すばらしかったです。